

2018 年度 センター試験 倫理（本試験） 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：36 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	○ 変化なし ● やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	○ 変化なし ● 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし

総評

大問数、出題分野の構成は昨年と同じだが、第 4 問の西洋近現代思想の分野で解答数が一つ減少した。昨年同様、受験生に馴染みのない人物の出題、表面的な知識では解き難い問題も見受けられたが、消去法の活用や重要語句の発見ができれば正答できる問題が大半であり、全体としての難易度は昨年度ほど高いものではない。日本の思想の分野では、昨年出題されたような原典からの引用問題はなかった。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	現代社会の諸問題・青年期の心理	28 点	問 2 のハヴィガーストやオルポートは耳慣れない受験生も多かったであろう。問 4 のマズローや問 9 のセンは思想内容が問われており、用語を知っているだけでは解けない問題であった。一部は思想内容の正確な理解が求められたが、全体的には標準的な問題が多かった。
第 2 問	源流思想	24 点	問 1 ではホメロスの出題が珍しく、問 2 ではイスラーム教が従来とは少し違った形で問われているのが目を引く。全体としては、標準的な問題である。
第 3 問	日本の思想	24 点	問 1 は神々の説明、問 2 は鑑真や一遍、問 3 は日蓮が詳しく問われた。問 4 は貝原益軒や富永仲基など、問 6、問 7 で西周・植木枝盛・三宅雪嶺が出題された。一見難しく見える選択肢であっても、消去法やキーワードの発見で容易に解ける問題が多かった。
第 4 問	西洋近現代思想	24 点	問 3 はカントの認識論がやや詳しく問われ、問 4 では科学と環境が融合し、問 6 はウイットゲンシュタインの言語ゲームやベルクソンのホモ・ファールベルが細かく問われている。設問の主題は難しく感じるが、選択肢の正誤がわかりやすい問題が目立った。